

AIが楽曲自動創作

東京都大メディア ユオ「ワライナキ」が
情報学部(横浜市都筑 システムと共同で制作
区)の大谷紀子教授II した「akaihane
情報理工学IIが人工知 e(赤い羽根)」は赤
能(AI)を活用した い羽根共同募金の応援
「楽曲の自動生成シス ソングとして公開され
テム」の研究を進めて ている。

性(人間)の感 楽曲の自動生成シス
性を学習し、好みに合 テムは個人が「いやさ
った楽曲を「創作」す れる曲」「元気の出る
る技術だ。フォークデ 曲」などを登録するこ
とで、AIに「個人の感 選び出した。次に3曲
性」を学習させる。A を学習したAIがそれ
Iは登録される楽曲が らの特徴を抽出、20パ
増えれば増えるほど、 ターンほどの楽曲を作
個人がどのような楽曲 り、ワライナキがその
でいやすれたり、元気 中から使いたいものを
が出たりするののかの知 思いつかないような楽
識が増える。そして、登 曲を生成する。

人工知能(AI)
人間の知的な活動をコンピュータ
Iに行わせる技術。1950年代後
半に研究が始まり、60年代に第1次ブーム、
80、90年代半ばに第2次ブームが起きた
が、高度な推論や判断ができるまでに至ら
ず、下火になった。2000年代に膨大な
データを使ってAIが自ら学習を繰り返す
新手法が取り入れられて第3次ブームが発
生。囲碁でトップ級に勝つものや文学賞の
1次審査を通過する小説をつくるものなど
ができ、進化を続けている。

人間の感性を学習

東京都市大の大谷教授研究

ワライナキとの応援
ソングの制作はシステ
ムの初めての実用化
だ。制作の第1段階は
コンサートの来場者へ
のアンケート。「応援
「助け合い」「あなた
かい」というイメージ
の抱かれている3曲を



akaihane

作詞・歌 ワライナキ
作曲 大谷紀子(東京都市大)
東京都市大/ワライ



東京都市大で楽曲の自動生成システムの研
究を進める大谷紀子教授(横浜市都筑区で

曲ができた。「自分た
ちの内にあるが、引き
出せないもの」を見つ
けてくれたような気が
する」などと話してい
るといふ。楽曲は公式
ウェブサイト(<http://warainaki.com>
)で視聴ができる。
システムは本格的な
実用化のメドが立って
いないが、大谷教授は
「入院中の患者がど
のような楽曲で安らぐ
のか」を学ばせてみた
り、特定の集団、たと
えば「横浜市出身の人
だけに響く楽曲」とい
うようなものを作って
みたりしたい」と意欲
的に語る。AIの進化
は「人の職を奪う」と
批判的な見方があるも
のの、「共存の道があ
る。AIは人の足りない
部分を補ってくれる
技術になる」と話した。
【水戸健一】

●この記事・写真等は毎日新聞社の許諾を得て転載しています。
無断で複製等、著作権を侵害する一切の行為を禁止します。